

第1回部会におけるご意見・議論のあった内容

<議論の前提>

- 人口を増やすのか、どこで増やすのかなど前提条件を整理しておくべき。
- 漠然と「京都市民」と書かれているが、住まれている市民だけでは限界。
- 単純な縮退ではなく、うまく効率的にまちを変えていくのが課題。
- 保全すべき場所と開発を行っていく場所の双方について、地域の個性に応じた進めていくべき。
- ネット社会により変化する物流や観光の動向を踏まえた都市構造を考えないといけない。

<活力・賑わい>

- 働き手や夢のある動き、産業の新しい成長などに向けた動きができればよい。
- 引き続き住む場所、働く場所を確保していく必要がある。
- 観光対策という点について、都市基盤・都市計画として何ができるのかソフト対策も含め考える必要がある。
- 製造業も支える事が大事。例えばスタートアップが集まるヴィレッジを作るといった形が必要ではないか。

<暮らし>

- 京都市では新規の住宅供給よりもストックの利活用ということもより重要視されるべき。
- 町家の改修は民泊やホテルも多く、税収・人口が増えていくためには、住まいが増える政策に転換するよう一歩踏み出していかなければいけない。

- 学生はどんどん転出していってしまう。まちに愛着を持ってもらうような取り組みを行い、定住・就職してもらうことも重要。
- 地元の人が住む形で人口が増えるのが良い。

<文化・景観>

- 自然は、三山だけではなく河川も暮らしや安心安全にとって重要な要素。
- 農業も景観の関連として進めていくというのを少し取り入れてもよいのでは。

<安心安全>

- 町内会など地域社会の強い絆を「守る」のではなく、「活かした」復旧・復興を目指すべき。
- 観光の方が来られた時の防災の視点が必要。
- 災害リスクと、コンパクトネットワークの考え方との関係を示すべき。

<その他>

- 市民の方は交通混雑やサービスに対する不満があるのではないか。
- 農家住宅等もまちづくりに生かしていけるのではないか。
- 保全、再生、創造の簡単な説明が必要ではないか。
- 職住共存、近接と保全・再生・創造の関係について、記載すべき。
- 業者の方に都市マスを理解いただいた上で、倫理観を持って京都に来てほしい。
- 次の世代が希望を持って京都に住みたくなるようなメッセージが必要ではないか。

議論を受けた次期都市マスの方向性

<前提の整理>

- ⇒ 保全・再生・創造という基本的な考え方を継承する。
- ⇒ エリアの特性（まち柄）を踏まえながら守るべき部分、伸ばすべき部分を示しメリハリのあるまちづくりを進める。
- ⇒ 時代や社会状況の変化に合わせたまちづくりを進めていく。
- ⇒ 京都に住む市民だけではなく、働く人、訪れる人など京都にかかわるすべての人を対象とした都市マスを目指す。

<活力・賑わい>

- ⇒ エリアの特性（まち柄）を踏まえながら、活力やにぎわいを生んでいく。
- ⇒ ポテンシャルのあるエリアで、スタートアップの立地を進めるなどして、働く場所を確保していく。
- ⇒ 駅やバスの混雑を緩和に向けた、分散化を検討していく。

<暮らし>

- ⇒ 様々な方が京都で暮らしていけるよう、ストックも重視しながら、多様なニーズに合わせた住まいを充実させる。
- ⇒ ポテンシャルのあるエリアで、住む場所を確保していく。
- ⇒ 学生が多い地域など、エリアの特性（まち柄）に応じたまちづくりを進め、まちに愛着を持って住み続けてもらえるように。

<文化・景観>

- ⇒ 三山だけではなく、河川や公園等といった身近な緑を活かす。

<安心安全>

- ⇒ 防災をはじめ、地域コミュニティの力を活かしたまちづくりを重視。
- ⇒ 観光に来られた方に係る対応も記載。
- ⇒ 災害リスクにも考慮しながら、都市機能の適切な配置を検討。

上記を踏まえ第2～5回部会において
エリア別指針の方向性
最終案を議論